

市民科の実施について

小中一貫教育要領（平成 22 年） これまでの成果と課題

- 学校と家庭が連携し、学習規律や基本的な生活習慣に対する意識が向上
- 人権問題をはじめとした社会問題への関心の高まり
- 人間関係を築くための必要なスキルの獲得
- 学校行事と市民科単元の関連
- ▲価値の教え込み ▲画一的な対処方法トレーニング

次代を生き抜く児童・生徒を育成する 品川区立学校教育要領の策定 （平成 30 年 3 月）

改訂にあたっての視点

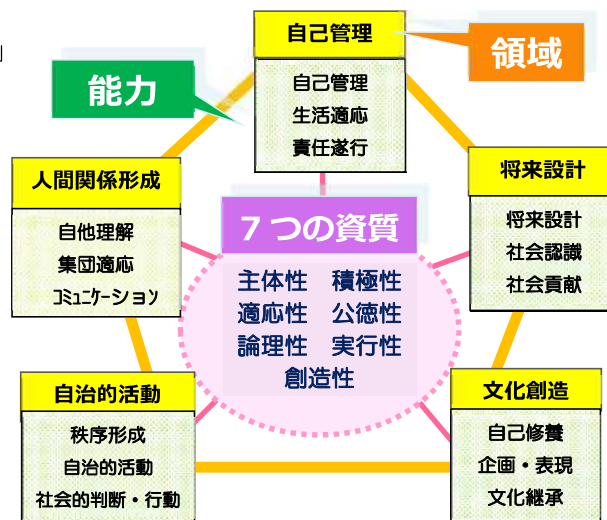
- ・急速に進展する少子高齢化やグローバル化していく社会の中で生き方を確立
- ・新学習指導要領において教科化された「特別の教科 道徳」への対応

市民科における資質と能力の育成を目標として捉え直し、主体的な学習活動を一層重視
これまで重視してきたことを大切にしながら、現代社会における課題に対応

5つの領域で育成する7つの資質と15の能力

一部の能力の名称や定義を見直し、能力を「個と内面」「個と集団」「個と社会」の順に並びよう再整理した。

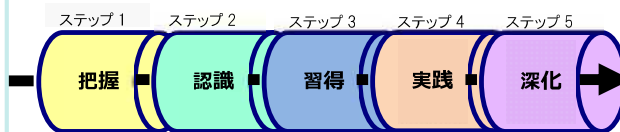
個の自立 個と集団・社会の関係をつなぐ 社会に関わる	自己管理領域 自主・自律に基づく基本的な生活習慣や社会的マナーを身に付ける
	人間関係形成領域 自己理解を深め、個性を発揮しながら集団の中で相互の信頼関係を築き、共存・共生を実現していく。
	自治的活動領域 社会的集団や組織において主体的に参加し、役割を果たし、民主的なコミュニティを創り出していく。
	文化創造領域 伝統文化、文化的行事、先人の知恵・偉業・生き方から普遍的な文化価値を継承・発展させる。
	将来設計領域 経済、金融の仕組みへの認識をもつ。将来の生き方、職業について目標をもち、人生設計を行う



5つのステップ

一貫プランを含む、どの単元の学習においても、学習過程は5つのステップを踏まえるものとする。

ステップ1	課題発見、自己の課題や社会的課題の把握
ステップ2	判断基準の確認、意義や価値の認識
ステップ3	スキルトレーニングや体験活動による技能や対処方法の実践
ステップ4	学校・家庭・地域における日常実践
ステップ5	自己評価、考えの深まり、新たな課題設定



全校実施内容（市民科学習）※時間数は指導書から

- セカンドステップ 第1学年 10 時間 第2学年 10 時間
- 学校茶道 第3学年 4 時間 第4学年 4 時間
- スチューデント・シティプログラム 第5学年 15 時間（品川学園で実施）
- S キャップス・プログラム 第7学年 5 時間
- ファイナンス・パーク 第8学年 15 時間（1人1台端末を活用）
- 武道 第5学年及び第6学年の文化創造領域で取り扱う
- いじめ予防授業
いじめ予防プログラム「トリプルチェンジ」1～9年生 年間3回
MELOG 3・5・8年生 年間3回推奨

標準授業時数 品川区立学校教育要領 と 新学習指導要領 の標準授業時数比較

学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年
市民科	85	85	140	140	140	140	120	140	140
新学習指導要領	68	70	140	140	140	140	120	140	140
特別の教科 道徳	34	35	35	35	35	35	35	35	35
総合的な学習の時間	-	-	70	70	70	70	50	70	70
特別活動	34	35	35	35	35	35	35	35	35

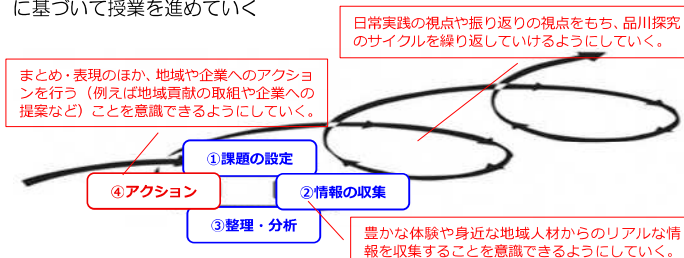
一貫プラン・探究的な学習（R8～）

児童・生徒や地域の実態に応じて、各学校の特色を生かした教育活動を展開し、**各中学校区の目指す児童・生徒像の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの中心に位置付ける時間。**

- ★全てのテーマ（一貫教育の視点、系統性）が各中学校区で目指す児童・生徒像につながることで、一貫プランとしての指導の系統性を保つ。
- ★「市民科学習」（教科書単元）とは別に、第3学年以上で年間 35 時間の実施。
- ★学習過程は**品川探究サイクル（仮）**とし、7つの資質・15の能力を育成。

【品川探究サイクル（仮）】

令和8年度の一貫プラン・探究的な学習については、品川探究サイクル（仮）に基づいて授業を進めていく



評価

「単元の評価規準」は、「把握・認識」と「技能・行動・態度」の2観点について評価する。「おおむね満足できる状況」を（B）として、学習の具体的な状況が分かるようにする。評価したことを指導内容や指導方法の工夫に生かしていく。

【通知表への記述】

1 年間で 5 領域について記述し、一貫プランについても含めるようにする。児童・生徒の行動や態度で変容したこと、実践・活用できたこと、学習の取組状況等、目に見える部分について多面的に評価し、一人一人の学習状況を継続的かつ総合的に把握し、ワークシートやキャリア・パスポート等、個人内評価を基に、記述する。

【指導要録への記述】

各校の重点に即し、毎学年、2～3 の領域を選んで記述。9 年間ですべての領域を網羅できるようにする。